

平成 28 年度 特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：平成 28 年 9 月 1 日から平成 29 年 8 月 31 日)

■日本レスキュー協会全体の動き p2

- ・組織改革

■事業の成果

【災害救助犬事業】 p3,p4

- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・九州北部豪雨災害対応
- ・他機関との連携および訓練
- ・協定締結
- ・災害救助犬候補犬の導入

【動物福祉事業】 p5,p6

- ・犬猫の保護、引き取りと譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応
- ・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・動物福祉事業人材の確保
- ・愛犬とともに学べる防災知識の発信
- ・隔離室の設置について

【セラピードッグ事業】 p7,p8

- ・被災地慰問活動（東日本大震災・熊本地震）
- ・母子医療センターでの取り組み
- ・セラピードッグハウス「心と心」の新設
- ・セラピードッグ派遣事業
- ・セラピードッグ候補および従事者の育成

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織改革

新職員 : 1名 (セラピードッグ事業)

■事業の成果

【災害救助犬事業】

平成 28 年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

・災害救助犬の標準化に向けた事業

本年度は、救助犬の標準化に向けた事業がまた大きく一步前進しました。神戸市消防局と日本レスキュー協会が一つのモデルになることを目指し、11 月には初めての合同訓練を実施し、双方で意見交換を十分に行うことが出来ました。また、12 月には兵庫県下救助作業部会合同訓練に参加し、兵庫県内の複数の消防本部にも救助犬の能力を知ってもらうことが出来、また神戸市消防局ともより一層の交流を図ることが出来ました。そして 5 月には、FEMA に所属する講師を 2 名招き、消防等の公的機関や民間の救助犬団体を対象にセミナーを開催しました。このセミナーは、前年度に引き続き 2 回目の開催になります。様々な関係機関の協力の元、平日にも関わらず多くの方々を受講して頂くことが出来ました。こういった活動を通して、神戸市の防災訓練にも初めて参加し、より多くの消防機関に PR することが出来ました。

・九州北部豪雨災害対応

2017 年 7 月 5 日から 6 日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した豪雨災害を受け、私たちは 6 日に隊員 4 名と災害救助犬 4 頭（「Q」「エイト」「ホープ」「J」）を現地に派遣しました。

7 日早朝、朝倉市役所災害対策本部に到着し、消防、警察、自衛隊との連携を図る為、すぐに災害救助犬の説明と協力をお願いしました。災害対策本部では、協定を締結している岡山市（岡山市消防局）や災害救助犬の運用について協力的な福岡県警と情報交換を行うなど一部理解が得られたものの、今回被災した自治体と協定を締結していないこともあり、全体的な災害救助犬への理解が乏しく、有効に運用される事が難しい状況でした。災害対策本部で待機していましたが思うように要請が得られなかったため、直接情報収集することを関係機関に伝え杷木林田地区に移動しました。そこで消防団から情報を得ることが出来た為、その地域を捜索する事を決めました。泥や土砂で足場はぬかるみ、水を含んだ土は匂いが出づらく災害救助犬にとって捜索が困難な状況でしたが、懸命に捜索活動を行いました。しかし残念ながら、2 日間の捜索活動を行ったものの、明確な反応は得られませんでした。

今回の災害では、公的な救助機関、他の救助犬団体、獣医師（九州北部豪雨動物関連情報共有グループ）等との様々な連携による情報共有や災害救助犬の活動面での安全性の確保が比較的円滑に出来たことで、少しずつ災害救助犬への理解が深まってきたことが実感できました。しかし一方で、まだまだ災害救助犬が有効に運用されないという課題と反省が浮き彫りになりました。今回の出動を通して、より優秀な犬を育成するだけでなく、救助犬が有効的に活動出来る仕組みづくりを構築する事の大切さを改めて実感しました。今後もその実現に向けて、事業の充実に励んでいきたいと思えます。

・他機関との連携および訓練

本年度も現場対応の為の連携および今後の国内の救助犬の在り方を協議する事を目的として、全日本救助犬団体協議会に所属している、NPO 法人全日本捜索救助犬協会、NPO 法人九州救助犬協会、沖縄災害救助犬協会と引き続き協議および合同訓練を継続しました。また全日本救助犬団体協議会に参加していない救助犬団体とも積極的に交流を深め有事に備えています。7 月には、長野県へ合宿訓練に行き、慣れて

いない施設で訓練を行い救助犬のレベルアップおよび他団体との情報交換に努めました。

・協定締結

本年度の活動の中で、災害救助犬の認知度・理解度が向上したことが「協定締結」という一つの形になって表れました。大阪府河内長野市（2016年9月2日）、和歌山県橋本市（2017年3月27日）、大阪府太子町（2017年5月30日）の3つの団体と災害時の災害救助犬の出動に関する協定を締結することが出来ました。今後、地域の防災訓練や当協会での合同訓練などを通して、顔の知れた関係づくりと連携力の強化に努めていきます。

・災害救助犬候補犬の導入

2017年7月、新しい救助犬候補犬を1頭導入しました。2017年4月26日生まれ、黒のラブラドル・レトリバーです。名前を太陽と名付け、3年後の出動を目指して育成していきます。

【動物福祉事業】

平成 28 年度も主に動物の保護・愛護活動を実施しました。

・犬猫の保護、引き取りと譲渡に関する事業

今年度は犬 11 頭、猫 4 頭の保護、引き取りを行い、犬 12 頭、猫 4 頭を一般家庭に譲渡しました。

・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

主に阪神地区で動物愛護保護活動される法人の譲渡会を見学するなど交流を図りました。

特に兵庫県伊丹市を中心に猫の保護活動を行う NPO 法人みゆうみゆうと犬の支援活動が行われているグループ 5 名と協力、連携を取り、主に伊丹市や尼崎市の行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）の収容動物を一般家庭に譲渡するために協働しております。

また九州北部豪雨災害時は、大分県日田市役所や大分県西部保健所で収集した情報を NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンと共有し、被災者への支援活動を行いました。

行政機関では平成 28 年 11 月 24 日に尼崎市動物愛護センター、平成 29 年 2 月 10 日に西宮市動物愛護センターへ収容された犬や猫達の医療や里親探しなどの支援を目的とする団体登録を行いました。

また平成 28 年 12 月より行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）に収容された犬や猫に対し、必要な医療を施し一般譲渡までに掛かる資金をインターネット募金で獲得しています。

・災害への対応

九州北部豪雨災害に際し、7 月 6 日（木）～7 月 11 日（火）まで緊急支援活動を行いました。

7 日～10 日までの 4 日間で 17 箇所（福岡県朝倉市 10 箇所、大分県日田市 5 箇所）の避難所を訪問し、ペット同行避難状況やニーズの調査、ペットと飼い主へドッグフードや衛生用品などの物資提供を行いました。

・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

今年度は育成の対象となる保護犬はいませんでした。

平成 28 年 4 月から生後 5 ヶ月の雄犬をセラピードッグ事業へ転属させ育成をされましたが、平成 29 年 2 月に実施された潜在性テスト（潜在的に人や犬に攻撃性を持っているか調べるテスト）の結果、初対面の人や犬に対し警戒心が強く認められ不合格と判断されリタイアし里親を探すと報告を受けています。

現在、平成 27 年 7 月から災害救助犬とセラピードッグの各事業が 1 頭ずつ保護犬からの育成を継続されています。

・犬のしつけ方教室の開催

効果的なしつけを行われなかった犬は「吠える」「咬む」などの問題行動を起こす場合があります、この問題が要因となり保健所に連れて行かれ、里親が見つからなければ殺処分される可能性が高くなります。

このような不幸な犬達を 1 頭でも少なくする為、本年度も毎月 1 回、ホームセンターで「愛犬しつけ方教室」を開催し、飼い主に対し効果的なしつけ方を教えています。

・動物福祉事業人材の確保

今年度は、適当な人材を確保する事は出来ませんでした。

・愛犬とともに学べる防災知識の発信

5月3日（土）、4日（日）に京セラドーム大阪で開催された「みんな大好き！！ペット王国」で、避難する時に必要な備品の展示、ペットと同行避難が体験できる「愛犬と一緒に同行避難体験セミナー」を開催しました。

その他、防災イベントの展示ブースやSNSで啓発活動を行いました。

・隔離室の設置の設置について

4月1日（土）、隔離室を設置し運用を開始しました。

購入設置費用は、クラウドファンディング（アイデアやプロジェクトを持つ起案者が、専用のインターネットサイトを通じて、世の中に呼びかけ共感した人から広く資金を集める方法）を利用し資金を獲得しました。

【セラピードッグ事業】

平成28年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

・東日本大震災被災地慰問活動

2017年6月6日～13日、東日本大震災被災地慰問活動のため、埼玉県・福島県・岩手県を訪問しました。震災から6年が過ぎた今もなお、仮設住宅に暮らさざるをえない人たち、ふるさとに帰ることが出来ず避難生活を送る人たち、心の苦しみから抜け出せない人たちも数多くいらっしゃいます。

また、震災により分断されたコミュニティで、ゼロから生活をスタートする住民の方々が、互いに支え合いながら生活する中で、人間関係を維持する事の難しさや、引きこもりからの孤独死など様々な問題が危惧されているようです。支援団体の方によると、仮設住宅での普段のイベントには参加されない方も、セラピードッグが訪問すると参加してみようかなと顔を出してくださる事で、その方の居場所ができ、認知症などの予防にも繋がるという事でした。また支援団体の方もその方の存在を把握し、見守る事ができます。

復興というにはまだまだ遠く、本当の意味での「心の復興」が訪れるまで活動を継続していきます。そのための助成金の獲得にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

・熊本地震被災地慰問活動

熊本地震により被害を受けた、八代市・西原村・宇城市・熊本市・益城町・南阿蘇村の福祉施設や支援学校、仮設住宅にてセラピードッグによる慰問活動を、平成27年12月・平成28年3月・7月の計3回、実施致しました。3回の訪問で参加頂いた対象者数は約450名にもものぼり、セラピードッグを必要として下さる方が多くいらっしゃると感じました。発災から1年が過ぎましたが、復興にはまだまだ時間が掛かると思われ、現在もセラピードッグに対する多くのニーズがある為、財源として赤い羽根共同募金などの助成金を獲得しながら今後もこの支援を継続していきたいと考えています。

・母子医療センターでの取り組み

2016年5月2日に初めて大阪母子医療センターからドッグセラピーについてのお問い合わせがありました。前向きに検討する中で、まず病院内で犬が活動する事への1番のハードルである感染症対策について院内で協議して頂きながら、協会側からは「人と動物の共通感染症」の権威である大阪府獣医師会の佐伯先生にもご協力を頂き、病院内のすべての職員の方に向けた説明会を行うなど、少しずつ理解を深めて頂きました。まず第一歩として、12月のクリスマス会に「にこり・皆輪・海音」の3頭のセラピードッグと共に子どもたちの元へ訪問しました。その後、大阪母子医療センターのQOLサポートチームの方々と意見交換を積極的に行いながら、また、セラピードッグの健康面に関しては、佐伯先生のアドバイスを頂きながら管理を徹底し、感染症に関する安全性を高め、2月・5月・7月・9月と訪問回数を重ねています。今年度は10月10日・12月11日・1月11日とあと3回の訪問予定がありますが、来年度は訪問回数を増やすこと、それとは別に定期的に犬を常在させる日を設ける事を目標に、資金獲得にも力を入れて行く予定です。

・セラピードッグハウス「心と心」の新設

2017年9月1日、協会グラウンド内に設置されていたプレハブを「大阪うつぼロータリークラブ」様のご支援により内部を改装し、セラピードッグハウス「心と心」として改装・オープンしました。来場して

セラピー犬達とふれあって頂くほか、子ども達に命の大切さを教える授業や、例えば寄付して頂いた絵本を置いて、読書が苦手なお子様や犬に読み聞かせをするイベント等も企画していく予定です。また、月に数回、地域の子ども達と高齢者が同じ空間でセラピー犬と過ごす時間を設けたいと考えております。具体的な料金やルール等は、現在検討中です。

・セラピー犬派遣事業

通常時の訪問活動を今期は高齢者施設 86 回、障がい者の支援施設 20 回、学校への講義 1 回、病院 9 回、子どもの施設 9 回、関東地区へは平成 29 年 4 月に実施し、高齢者施設 5 箇所を訪問しました。合計 130 回訪問しました。その中で新規の訪問施設 7 箇所でした。昨年度に引き続き大阪市の社会福祉協議会からの依頼で高齢者と子ども達との交流イベントに参加しました。以前訪問に伺っていた施設から 2～3 年振りに訪問依頼が来る施設もあり、セラピー犬の認知度が少し高まってきたのではないかと思います。

新規の訪問のお問い合わせは多々ありますので、訪問に繋げ定期的に訪問していけるように今後も努力してまいります。

・セラピー犬候補および従事者の育成

引き続き、企業からのセラピー犬育成のための助成金を獲得できましたので、リタイア犬の風翔に代わり、新たに 1 頭のセラピー犬候補の育成を開始しました。次世代のセラピー犬も増えてきておりますので、育成にも力を入れて訪問件数の増加にも繋げてまいります。

合わせて、平成 29 年度で 4 年目となる非常勤講師を慈恵学園の大阪 ECO 動物海洋専門学校で務めさせていただき、セラピー犬事業に従事する後進の育成にも力を注いでいます。

セラピー犬事業責任者候補を平成 29 年 2 月に雇用し、日本レスキュー協会セラピー犬事業の全体像の把握や新たな事業展開の方向性など学ばせています。今後 2 年ほどを費やしながらかこの人材を事業責任者として育成します。

これからも災害救助犬やセラピー犬の育成・派遣に努め、同時に動物福祉の啓発活動をますます充実させていくべく活動に努力してまいります。

【事業詳細については、別紙に記載】